



令和1年12月23日

関係者 各位

一般財団法人
日本モーターサイクルスポーツ協会

2020年度 国内競技規則書 規則変更点のおしらせ

来年度のロードレースの競技会において、主な変更点を事前にお知らせいたします。
詳しくは、2020年度の国内競技規則書（12月25日発行）と合わせてご確認ください。

主な変更点 （項目）

1. 新設 ST1000 クラス （クラス構成、ワンメイクタイヤ、ECU）
2. 全日本選手権 J-GP3 クラス 若手育成「GP3 チャレンジクラス」について
3. 全日本選手権 ゼッケンベースカラーの変更について
4. 全日本選手権 ST1000、ST600 リアセーフティーライトの導入について
5. エアバッグ式プロテクションの導入

1. 新設 ST1000 クラスについて

2020年全日本ロードレース選手権、地方選手権に「ST1000」クラスがスタートします。
改造範囲の制限やワンメイクタイヤ制度などで JSB1000 との違いを明確にし、全日本では JSB1000 との混走ではなく、独立したレースとして開催いたします。

1) ST1000の参加車両の概要

- ・一般生産型モーターサイクルで、一般市販価格300万円（消費税含まず）以下のMFJ公認車両でなければならない。
- ・ECUは、MFJ公認部品ECU制度を導入。
公認車両申請メーカーおよび関連会社が製作販売するECU（フル・コンピューター）または、アフターマーケットメーカーが製作したECU（フル・コンピューター）およびサブ・コンピューター。ただし、売価が30万円(消費税含まず)以下のものに限定される。

2) 地方選手権ST1000クラスとインターJSB1000のクラス構成

2020年度からナショナルJSB1000クラスは、ナショナルST1000クラスに統合される。

クラス名称	ライセンス	ワンメイクタイヤ	備考
ナショナル (Nat) ST1000	国内ライセンス	適用クラス	19モデルまでのJSB1000車両も参加可能 ※
インター (Int) ST1000	国際ライセンス	適用クラス	
インター (Int) JSB1000	国際ライセンス	適用外クラス	

- ・ ※ナショナルST1000クラスには、2019ナショナルJSB1000クラスに参加していた2019年モデルまでの公認車両に限りJSB1000仕様（車両販売価格は適用されない）での参加を認める。
（暫定2025年度までとする。）
ただし、タイヤワンメイク制度は適用される。 同一の昇格ポイント、章典の対象とする。
- ・ ST1000、JSB1000クラスは、参加台数により、各施設で設定されている承認競技クラスとの混走する場合がある。

3) ECUについて

ST1000用MFJ公認部品として登録された「ECUおよびサブ・コンピューター」の使用が認められます。使用できるECUは、下記の項目に適合したものとなります。

1. 公認車両に装着されたECU（レースベース車両のキットECUは、下記2.の扱い）
2. 公認車両メーカーおよび関連会社が製作販売するECU（フル・コンピューター）
3. アフターマーケットメーカーが製作したECU（フル・コンピューター）およびサブ・コンピューター。ただし、売価が30万円(消費税含まず)以下のものに限定される。
 - ・ サブ・コンピューターは公認車両(レースベース車用レース専用を除く)のECUとの併用のみが認められる。ST1000用部品公認ECU（フル・コンピューター）との併用は許可されない。

現在 使用できるECUのリスト

12月23日現在

公認車両メーカーおよび関連会社が製作販売するECU（フル・コンピューター）

メーカー	車両名	型式	キットECU型式	部品番号
川崎重工業	2011-2015 Ninja ZX-10R	ZXT00J/K	F8TG0471	J921175-0756
			F8TG0472	J921175-0878
	2016 Ninja ZX-10R/RR	ZXT00R/S/Z	F8TG2171	J921175-1205
	2019 Ninja ZX-10R/RR	ZXT02E/F/G	F8TG2181	J921175-1540
スズキ	2007 GSX-R1000	K7/K8	EM Pro	490-508-0000
	2012 GSX-R1000	L2/L3/L4/L5/L6	EM Pro	490-519-0000
	2017 GSX-R1000	L7/L8/L9	Control unit,FI	490-50A-1000
	2019 GSX-R1000 L9	L9	Control unit,FI	490-50A-1001
ヤマハ発動機	2015 YZF-R1/YZF-R1M	2CR	KIT ECU 2015	2CR-8591A-70
			KIT ECU 2016	2CR-8591A-71
	2017 YZF-R1/YZF-R1M	BX4	KIT ECU 2017	2CR-8591A-72
			KIT ECU 2018	BX4-8591A-70
			KIT ECU 2019	BX4-8591A-71
本田技研 工業	2017-2018 CBR1000RR SP2	SC77	NLS	38770-NLS-A00
	2017-2019 CBR1000RR / CBR1000RR SP	SC77	NLS	38770-NLS-A00

アフターマーケット製ECUについては、MFJ公認部品ECUはありません。（12/23現在）

4) ワンメイクタイヤについて

全日本選手権および地方選手権の ST1000 クラスは、住友ゴム工業株式会社 ダンロップ
タイヤのワンメイクタイヤ制度が導入されます

① 指定タイヤについて

用途	F/R	名称	コンパウンド	サイズ	商品コード	発売時期
ドライ	フロント	KR149	M3	120/70R17	338324	2月中旬
		KR149	H3	120/70R17	338325	3月中旬
	リヤ	KR133	S1	200/60R17	337769	2月中旬
		KR133	M1	200/60R17	337770	3月中旬
ウェット	フロント	KR189	WA	120/70R17	293413	発売中
	リヤ	KR405	WA	190/60R17	334071	発売中

② タイヤの入手方法

- ・ 全日本、地方選手権の当該大会にエントリーしている者のみ特別販売価格にて購入できます。
- ・ 希望者は、大会エントリー期間中に大会参加料と合わせて「タイヤの購入注文書※」とタイヤ代金を添えて、大会主催者に申し込みを行ってください。 ※別の書式用紙です。
- ・ ご購入いただけるタイヤは、ドライタイヤ前後タイヤのセットのみとなります。
- ・ タイヤのコンパウンドは、大会期間中のタイヤ受け取りの際に指定してください。
- ・ 注文書にはセット数のみタイヤ指定してください。
- ・ 購入したタイヤは、大会期間中の指示された時間にタイヤの引き渡しが行われます。引き渡し時間は、主催者の指示に従ってください。

③ タイヤの特別販売価格

ドライタイヤ1セット	26,725 円（消費税込み）	
------------	-----------------	--

- ・ 大会毎に、全日本選手権 2 セット、地方選手権 1 セットまで購入することができます。
- ・ ウェットタイヤの特別販売価格の設定はありません。

④ ダンロップ指定表示

ワンメイクタイヤ制度に伴い、ダンロップ指定表示が参加者に対し、順守事項として義務付けられます。

車両の広告スペース

< 車両 図参照 >

車両 ステッカー位置	ロゴタイプ※	サイズ（横×縦）
フロントフェンダー（左右各1カ所）		6.0cm×7.5cm
スイングアーム（左右各1カ所） ただし、スイングアームへの貼り付け不可の場合、 フェアリング（左右各1カ所）の指定されたエリア		22cm×4.3cm

ヘルメットまたはレーシングスーツの広告スペース

< 図2参照 >

いずれかの箇所にロゴステッカーまたはワッペンを貼り付けなければならない。

ヘルメット/スーツステッカー位置	ロゴタイプ※	サイズ (横×縦)
ヘルメットのシールド脇 (左右各1カ所) または、 ヘルメットサイド部分 (左右各1カ所) のいずれか 指定されたエリアに貼り付け		3.1cm×3.5cm
レーシングスーツ (前部分 1カ所)		8cm×1.6cm
		10cm×2cm

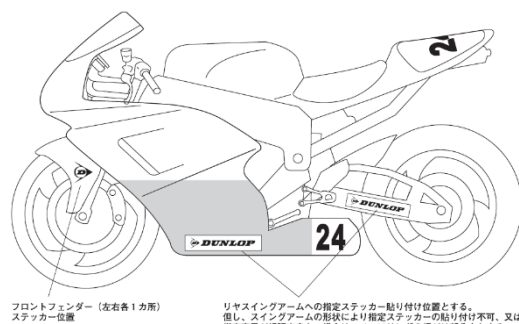
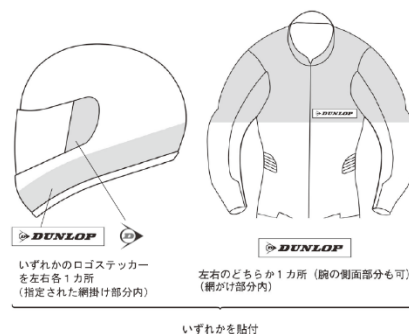


図2



2. 全日本選手権 J-GP3 クラス 若手育成「GP3 チャレンジクラス」について

2020 年全日本ロードレース選手権 GP3 クラス内に若手育成を目的とするクラスを新設します。

全日本 J-GP3 クラスは、現行の J-GP3 クラスに加え、若手育成クラスとして「GP3 チャレンジ」さらに、「GP3 特別参加枠」の構成として、若手選手がベテラン選手と実践を通してスキルアップを行い、海外で活躍できる選手を育成するプログラムになります。

チャレンジクラスで全日本選手権オートポリス大会時点でのランキング 1 位の選手は 2021 年 IDEMITSU アジアタレントカップの年間出場選手に推薦されます。

タイトル	クラス名称	参加資格と年齢	技術仕様
全日本 選手権	J-GP3	MFJ国際ライセンス所持者およびFIMインターナショナル ライセンス所持者 年齢13歳以上	付則7GP規則適用
	J-GP3 チャレンジ	MFJ国際ライセンス所持者 (FIMライセンス所持者は含まれない。) 年齢13歳以上19歳以下	NSFチャレンジ規則適用 および車両とライダー重量適 用、データロガーの使用

3. 全日本選手権 ゼッケンベースカラーの変更について

全日本選手権における各クラス (車両) の違いを明確にして、観客へのアピールを高めるために変更を行う。

13-5 全日本選手権 (ナンバープレート) 規則

13-5-1 JSB1000クラス

13-5-1-1 ナンバープレートの地色および数字の色は下記のとおりとする。

文字 (数字) の色は、黒か白文字とする。ナンバープレートのバックグラウンドの色は自由とするが、文字 (数字) が判別しやすいようにしなければならない。

13-5-1-2 数字の字体は、Futura Heavyを基準とするゴシック体とする。また影付き文字などは認められない。ただし、チャンピオンゼッケンの1に限り字体は自由とするが、判読しやすいものでなければならない。

13-5-2	ST1000、ST600、J-GP3クラス
13-5-2-1	ナンバープレートの地色および数字の色は下記のとおりとする。 J-GP3 赤地に白文字 ST1000 紺地に白文字※ ST600クラス 白地に黒文字
13-5-2-2	数字の字体は、Futura Heavyを基準とするゴシック体とする。また影付き文字などは認められない。ただし、チャンピオンゼッケンの1に限り字体は自由とするが、判読しやすいものでなければならない。
補足：	JSB1000 の地方選手権のゼッケンベースカラー： 黄地に黒文字

※ 当初、ST1000クラスは、緑地に白文字で発表されていますが、紺地に変更になっています。

4. 全日本選手権 ST1000、ST600 クラスのリアセーフティライトの導入について

全日本選手権の JSB1000 クラスに導入されているセーフティライトを ST1000 および ST600 クラスに導入いたします。規則内容は、JSB1000 クラスと同様の内容です。

リヤセーフティライトの規則内容

- ・ ライトの向きはマシンの中心線（車両の走行方向）と並行で、かつ後方から少なくとも中心に対して、左右それぞれ15°の角度からはっきり見えなければならない。
- ・ リヤセーフティライトは、シートカウル後端付近（タイヤ外径の上端より上方で、リヤタイヤアクスル軸より後方）に取り付けられていなければならない。
- ・ 電源はマシンのメインスイッチと連動しているか、バッテリー（セーフティライト専用でも可）から直接接続されても良い。セーフティライトのレンズの面積は1200mm²以上とし、使用する電球は1個以上で10～15w（白熱球）または0.6～1.8W（LED）のものを使用すること。

5. エアバッグ式プロテクションの導入について

1) 18歳以下のライダーへのエアバッグ式プロテクション着用義務化

2019年版国内競技規則で予告した通り、2020年より18歳以下のライダーへエアバッグ式プロテクションの着用が義務付けられます。（MFJに登録されたエアバッグ式プロテクション）

エアバッグ式プロテクション

18歳以下の選手に対するエアバッグ使用義務（2020年1月1日より）

18歳以下の選手は、MFJに登録されているエアバッグを使用（着用）しなければならない。車検時にエアバッグがMFJ登録製品であることを確認する。

車検時に複数のエアバッグ（仕様または型式違いでも可）を登録することも認められる。

※18歳以下とはレースウィークの予選日時時点で満18歳以下の者をいう。

※適用はMFJ公認競技会（全日本選手権・地方選手権）。

★2019年9月現在登録されたエアバッグ式プロテクションリストを別紙に記載しますので確認願います。

http://www.mfj.or.jp/PDF_files/2020MFJ-airbag-touroku190925.pdf

新規登録が追加された場合は都度ホームページで示します。